

泌尿器科の患者さんが不安のない日々を過ごせるように

27

頻尿、尿が出にくいなど泌尿器症状があります。
泌尿器科でどんな検査しますか？ — 恥ずかしくないですか？ —

文 佐々木裕

text by Hiroshi Sasaki

今日は、泌尿器科の検査についてのお話です。

「尿の回数が多く困っています、尿が出にくくなっています」

こんな場合、前立腺肥大症や過活動膀胱などの可能性があります。でも、泌尿器科に行くのは不安で、という方も多いと思います。今日は、そんなとき泌尿器科ではどんな検査をしているか解説したいと思います。

排尿障害を認める場合、泌尿器科ではまず、問診や質問票などの記入をお願いします。どんな排尿の問題があるのかを把握します。次に、尿検査を行います。尿に血液が混ざっていないか、濁りや細菌がないか、また、蛋白や糖などが出ていないかを確認します。尿検査では、疑う病態によって出始めの尿を取るのか、中間の尿を取るのか指示が出ると思います。排尿状態の評価では、尿流量測定検査（ウロフロメトリー検査）を行う場合があります。トイレで、機械に向かって排尿していただくものです。最近では、普通の便器にこの機能がついているものがあり、

いつも通り小用を足すだけで自分の尿量、勢いなどの客観的評価を行うことができます。他には超音波検査検査

を行います。腎臓、膀胱、前立腺などの評価を行います。男性では、前立腺の大きさを測定します。また、結石や腫瘍の有無などの評価も行います。さらに残尿測定検査を行う場合があります。超音波検査機器を用いて行うことが多く、排尿後に下腹部恥骨上に測定機器を当てて残尿量を測定しています。排尿障害では、まずこのような検査を行うことが多いです。いずれの検査も痛みや侵襲を伴う検査ではないのでご安心ください。

でも恥ずかしいのでは？

最近では、トイレが男女別のクリニックも多いです。クリニックによっては、男女待合が別などの配慮をしているクリニックもあります。尿流量測定検査は、トイレ内で行いますので恥ずかしさはないと思います。また、超音波検査では、女性の場合は、女性の看護師・スタッフが一緒に行いますので、ご安

心ください。

頻尿の原因には、過活動膀胱、前立腺肥大症だけでなく、結石、感染症、悪性腫瘍（がん）などから症状が出ることもありま

す。年のせいと、思わずに症状が続く場合は、気軽にお近くの泌尿器科でご相談してみてください。

Profile

医療法人社団 SASAKI CLINIC 理事長
佐々木クリニック泌尿器科 芝大門 院長
慈恵医大 泌尿器科 非常勤講師

1973年生まれ。1999年、慈恵医大卒。虎の門病院、東海大学、トロント大学を経て慈恵医大で長く前立腺がんの研究・診断・治療などを行ってきた。特に腹腔鏡・ロボット支援手術は2000例以上の執刀・指導経験を持つ。また、MRI/US 前立腺融合標的生検の先進医療では、保険適用に尽力した。2022年11月、東京都港区に泌尿器科専門の佐々木クリニック泌尿器科芝大門を開院した。日帰りの前立腺生検や放射線治療前のスパーサー挿入などにも力を入れている。

